

幼児用絵画統覚検査(RCAT)の

適用事例について

(頌栄短期大学) 西本 脩
 (芦屋市児童教育研究所) 山本 真市
 (西宮市上甲子園小学校) 吉井 忠生

(目的) 前述のような目的と意図のもとに、新たに作製した幼児用絵画統覚検査(RCAT)について、その検査結果の分析法および解釈法を事例にもとずいて述べ、あわせて、この検査の妥当性について検討しようとする。

(分析の方法) 被検者が各図版に対して述べた十六の物語の一つ一つについて、その内容を次のように分析する。

1. 主人公 物語の中心人物は誰か。
2. 主人公の欲求と行動、物語の中にある主人公の中心的欲求は何か。又その欲求の対象は何か。

《欲求・行動の種類》

- 獲得・確保・飲食・認知・遊び・無活動・挽回・愛情・親知・救助・養育・自己顕示・伝達・拒否・攻撃・圧力排除
- 3. 圧力およびその源泉
 - 獲得・確保・養育・支配・拒否・攻撃・災害・運命・不幸・欠乏・疾患・挫折・身体的不全・心的不全

各 図 版 別 欲 求 ・ 圧 力 出 現 頻 数 表

心的不安(恐怖) 挫折 身体的不全 全折 全全	疾病 罪 患	運災 命害	不欠幸 命害	支養得 配育	獲保堅 得保堅	確保堅 得保堅	拒否 拒否	欲 求		遊欲確獲認無挽愛自攻救親伝養拒力 己 活 頭 排														
								力	版	遊	欲	確	獲	認	無	挽	愛	自	攻	救	親	伝	養	拒
								練	かく	れん	ぼ	*	3	3			2							
								1	お	や	つ	*9*4			1	1								1
								2	お	ん	ぶ	1			*2	10		4						1
								3	紙	芝	居	1		*9										3*5
								4	贈	物		8	*72		2									
								5	寝	床		4		1	*1	*								1
								6	す	も	う		*											*
								7	孤	独		5			1	1								2
								8	野	球		*7	1		*2	2								*
								9	お	話			*41		1	4	3							1
								10	食	事		3*5			*									1
								11	夜			1	1	1*2		*61								4
								12	遊	び		*2	1		*		*43							*
								13	お	店		*1	*18		*									
								14	電	話		1		1		*		2*						
								15	泣	く		*2												*

註 *印は出現を意図した欲求・圧力を示す。
 数字は幼児 35 名中の出現頻数を示す。

(解釈の方法) 被験者がこれらの絵に対して作った物語は、そのときその絵に関係させながら、被験者がその絵を通して自己自身を表現したものである。それ故、われわれはその物語を通して、彼のパーソナリティー(人格)を知ることができる。

前述のような方法で、一つ一つの物語について分析せられた資料を綜合して、一つの総合的な解釈をする。その際、次の諸点について留意するとよい。

1. 主題―物語の主な内容(一枚の絵から判断するよりも、数枚の絵から判断して、それらに共通に見られるものを見つげ出す)
 2. 主役(物語の主人公)―物語の中の誰に、自己を同一視するか。
 3. 何として見られるか―事物を如何に見、これに如何に反応するか。
 4. 誰に同一視するか―家族中の誰に同一視するか。
 5. 画面にない人物・事物や環境の挿入
 6. 無視された人物や事物
 7. 物語の結末―物語の結末が幸福かどうか。
- 尚、この際、被験者のケース・スタディー(事例研究)によって得られた色々な調査資料(例えば、生育史、家庭環境調査、知能テスト、性格テストなどの結果)も綜合した上で、被験者のパーソナリティーを診断することが大切である。RCATの結果のみで、直ちに解釈や診断を下すことは、独断的になるおそれがあるから、避けなければならない。

(この検査の妥当性) 各図版について、幼稚園児および保育所幼児

三五名に予備実験を行った。その結果、四才以下の幼児の場合は、断片的な絵の敘述に終始して、自己表現のみられないものが多かった。五才以上の幼児の場合は、たとえ断片的な反応であっても、若干の質問を補足すれば、その分析が可能であることが判った。

今、これらの幼児の反応を、主人公の欲求―圧力の面から分析して表にすると、次表の如くなる。

この表によって、われわれのねらいとしたところと、予備実験の結果実際に得られたところとを比較すれば、大体妥当なものと考えることが出来る。

(事例)

1. T、M、男児、六才五カ月 保育所児
2. 問題点(保母の訴え) 乱暴。いたずら。友達をはじめめる。保母を独占したが、よく保母のまわりへくっついてくる。落つきがない。
3. 生育史および家庭環境 父パン屋、喫茶店経営。母も同喫茶店の仕事に従事。父はやさしいが母はきびしく叱る。小学校五年生の兄と、四才の妹あり。本人はずっと夜尿のくせあり。そのためか睡眠が浅い。
4. RCATの結果

(図版2の物語)「お母さんにおんぶしてもらいたいなあと見ています」

(分析) 救助・愛情の欲求。対象は母。

(図版3の物語)「紙芝居を見ている」「仲のわるい子がいて、いじめられるから、こわくて見られない」「家で本を見て遊ぶ」

遊戯操法とC・A・Tによる

診断と指導

松本市立松本幼稚園

加藤 清子

(分析) 圧力排除の欲求。対象は友達。攻撃の圧力。源泉は友達。
(図版5の物語) 「ねている。」「日曜日の朝お母さんのねている間に起きて遊ぼうと思つて、ソーツと出て行く」「後でお母さんに叱られた」

(分析) 遊びの欲求。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版7の物語) 「こわいから走って帰っている」「お友達と遊んで遅くなった」「お母さんに叱られるだろう」。

(分析) 不安の圧力。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版11の物語) 「お母さんに叱られて出された」「夜遅くまで遊んだから」「後でお迎えに来てくれて、晩ごはんを食べてねる」

(分析) 罪の圧力。源泉は夜遊び。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版12の物語) 「砂場で遊んでいる」「いたずらするから遊んでくれない」「先生に云いつけた」「よい子になってなかく遊ぶ」

(分析) 伝達の欲求。対象は先生。拒否の圧力。源泉は友達。

5. 解釈と診断

右記のように、各図に対する反応を分析した結果を綜合して見ると目立つことは、母親および友人からの攻撃の圧力が非常に強くはたらいっていることである。したがつて、この母親は、本人にとつて「非常にこわいもの」という風に印象づけられ、本人はその強い圧力による欲求不満の状態にあるように思われる。本人の色々な問題行動の原因が恐らく、母親および友人からの圧力による欲求不満の結果によるものと思われる。また本人は母親の愛情を求めており、保母の愛情をも求めていることが、その物語から判る。

1 目的 子どもたちのかくされている心の世界を外面化し、教育の実際に役立てるため、実験方法として遊戯操法とC・A・Tを用い、併せて二つの実験の関連性をも捉えようと試みたのである。

2 被験者 お茶の水女子大学附属幼稚園六才女兒十二名

3 実験期間 遊戯操法 昭和二八年六〜九月

C・A・T 同 二九年二〜三月

4 遊戯操法 (Play Technique) 刺戟の少ない部屋に二枚ののぎを敷き、大・中・小十数個の人形と、ままと道具類を用意し、つれてきた二人の幼兒に二枚ののぎがそれぞれの家であることを知らせ、自分達の家族数だけの人形を選ばれて、三〇分間ままと遊びをさせた。人形、すなわち家族の人々の活動のさせ方の中に、幼兒の外面化されない世界が投影されるだろうという想像は、ほぼ裏切られなかったようである。

図表Iは、実験の結果を処理した一例で、人形の活動のさせ方を示したものである。大部分の子どもが母中心で、母子関係をよく用